

# ON AIR

NO. **96**

放送大学通信 オン・エア

発行月 平成21年12月

発行 放送大学

〒261-8586 千葉県美浜区若葉2丁目11番地  
043-276-5111 (代)

## CONTENTS

特集「世界公開大学学長シンポジウムinさいたま」	1
第一回日韓中セミナー開催について	5
放送大学教授対談 第2回	6
平成21年度新入学生アンケート	10
平成22年度学部・大学院開設改訂科目紹介	12
エキスパートREPORT①	16
サークルだより	17
学習センターだより	18
インフォメーション	20



## 世界の公開大学の挑戦

世界公開大学学長シンポジウムに参加して

自然と環境 准教授 二河 成男

世界公開大学学長シンポジウムinさいたまが、11月14、15日にさいたま市の浦和コミュニティーセンターで開催された。世界10カ国の公開大学の学長や副学長が、「生涯学習コミュニティの構築と遠隔教育の役割—国際的視点」というテーマを中心に、2日間にわたって興味深い発表と活発な議論を展開した。登録すれば誰でも参加できる、公開大学らしいシンポジウムであった。本稿ではこのシンポジウムについて、私の感想を含めて紹介する。

本学も含め10の公開大学の学長あるいは副学長に相当する代表者が、自身の大学の新たな取り組みを紹介した。ここでは、国際遠隔教育会議の議長でもある、カナダのFrits Pannekoekアサバスカ大学学長、司会の高橋和夫放送大学教授より“世界の公開大学の母”と形容された英国公開大学のDenise Kirkpatrick副学長、そして歴史は浅いがすでに多くの学生が学び、情報通信の先進技術を利用して国内にとどまらず国外にも教育を提供しているマレーシア公開大学のAshmad Hashem ITマネージャーの3名の講演を中心に紹介する。

はじめに主催者である、鈴木寛文部科学副大臣、清水勇人さいたま市長、石弘光放送大学学長が挨拶を行った。皆、生涯学習あるいは遠隔教育に思い入れがあり、短い中にも今回のシンポジウムの盛り上がりを感じさせる、気持ちのこもった挨拶であっ



た。引き続いて、板東久美子文部科学省生涯学習政策局長が基調講演を行い、過去、現在、未来に渡る日本の生涯学習社会の歩みについて解説された。

### アサバスカ大学—知識基盤社会での公開大学の役割

国外からの演者として、まずはアサバスカ大学のPannekoek学長が「カナダの公開大学：地域レベルとグローバルレベルでの学習コミュニティの構築」という演題で講演を行った。Pannekoek学長はまず、知こそが新しい経済の貨幣であるということを示した。これは最近よく耳にする言葉であり、メリーランド州立大学ユニバーシティ・カレッジのAldridge学長もそのことに言及した。そして知が活用されることによって、富が生み出される



石弘光学長



鈴木寛文部科学副大臣



清水勇人さいたま市長



板東久美子  
文部科学省生涯学習政策局長



高橋和夫教授(司会)

時代が来たこと、さらに社会において、これまでも増して公開大学への期待が高まっていることを示した。また、移民に対する英語教育、携帯電話などの移動通信技術を利用した遠隔教育とその有効性、公開大学の国際化、基礎的な講義の充実などについて紹介があった。

## 英国公開大学—仮想世界と地域社会での学習コミュニティの形成

2日目の最初に発表されたのは、英国公開大学の Kirkpatrick 副学長である。演題は「遠隔学習による学習コミュニティの構築」であった。英国公開大学は、さまざまな点で興味深い遠隔教育を実施している。そのため、世界の公開大学の中でも指導的な立場にあり、多くの公開大学がその手法を学んでいる。特に、教材作成、学習支援者制度において優れたものを持っている。今回はコミュニティ形成における、インターネットの利用と地域ネットワークの重要性について先進的な試みを紹介した。英国公開大学の学生も、学習の継続性、希薄な所属意識あるいは孤立感といった遠隔教育に特有の悩みを抱えている。これらを改善するために、英国公開大学では学生間のコミュニティ形成を推進していた。その試みとして、インターネット上で、セカンドライフ（インターネット空間の仮想世界のひとつ）やフェイスブック（人間関係を構築す

るためのウェブサイトのひとつ）といった既存のウェブサイトを学生に開放することによって、学生間ネットワークの形成を促進していた。また、自らの学生に留まらず、一般社会に向けての学びのコミュニティ形成を進めていた。例として、アップル社が運営しているコンテンツ配信サービスを利用した学習教材の無償配布、ウェブサイトを利用した自身の学習教材の体験版配布についての紹介もあった。

一方、インターネット上だけでなく、対面でのコミュニティ作りの試行についても紹介があった。その第一の目的は、地域社会における学習に対する意識を高めようというものであった。手法としては、小学校、ボランティアグループ、労働組合などを通して、子を持つ親、家庭、あるいは地域において、講義や学習素材の提供を積極的に行うというものであった。このように、地域社会全体に学習を習慣的なものとする環境を構築することによって、最終的には若年層を含めた地域や国全体での高等教育の普及を目指していた。

## マレーシア公開大学—情報化と国際化

マレーシア公開大学の Hashem IT マネージャーは「教育の機会向上による学習コミュニティの構築」という演題で講演を行った。マレーシア公開大学は、2000年に開学した新しい大学である。今回集まった他の公開大学は多かれ少なかれ、国あるいは地域から予算の一部がまかなわれている。一方、マレーシア公開大学は初期投資を除いては、授業料や寄付からなっている私立大学である。さらに、マレーシアにある11の国立大学が共同出資して設立した団体が、設立母体となっている特殊な大学である。学生の年齢層が比較的高いこともその特徴の一つ



各大学の代表者が並ぶ会場前列

である。日本と韓国を除くとアジアの公開大学で学ぶ学生の多くは20—30歳代前半だが、マレーシア公開大学は学生の75%は30歳代以上である。そのためか、設立当初は多くの学生が、大学が積極的に活用している情報通信技術を使いこなせず、苦情を申し立てたそうである。また、基本的な学習の方法を習得していない学生が多いことが判明したので、入学者に対して、基礎的な学習方法や情報通信利用技術を身につけることを主題とした講義を導入し、学生が遠隔教育を通じて自習できるように指導していることを紹介した。

また、学校の教師の学習にも力を入れていることが紹介された。学士号を持たない教師に対して、学士号の取得を奨励する国の方策に沿って、教師の能力の向上を目的とした講義を作成し、その提供を行っていること、特に僻地の教師に対しては、長期休暇の間に集中的に対面式の講義を行い、学生が学びやすい環境を作っていることを紹介した。このような教師に対する学習の機会の提供は、他の公開大学でも積極的に行っており、今回の講演の中でも、英国公開大学はサハラ以南のアフリカでの教師の能力向上活動について紹介していた。

マレーシア公開大学は、国外での学習機会の提供も積極的に進めており、モルディブ、イエメン、バーレーンでは現地の大学に自らの教育システムを提供して、現地での学士や修士号の取得を可能としていた。また、インターネットを用いて、外国に居住する学生に情報通信関係の修士コースを提供している。このコースは、学生だけでなく、その教員にも国外の在住者を多数含んでおり、新しい形の国際的な環境を構築している。

## 門戸拡充への課題

### —新しい情報通信技術の可能性

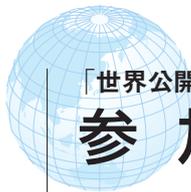
以上のように、これら3つの公開大学での新しい試みについての紹介があった。英国やマレーシアの公開大学では、情報通信技術部門が新しい技術の積極的な利用を推進しており、その点は放送大学とは異なっている。放送大学でも新たに加わったICT活用教育センターを中心に、授業や学習支援において、情報通信技術の積極的な活用を期待し

たい。また、地域社会においては、石学長が講演でも説明されていたが、学習センターを拠点とした、地域社会への生涯学習の推進が重要になるであろう。アジアの他の公開大学も学習センターを学習や学生間のネットワークの拠点と位置づけている。日本も含めて、比較的人口が集中している都市では有効な手段である。一方、情報通信技術を積極的に取り入れている公開大学では、国外で学ぶ学生にも学習の機会が提供できている。歴史的な英国との関係から、英語が公用語である、あるいは大学教育で一般的に使われている国であることも、その要因であると思われる。放送大学までもが、英語で講義を提供する必要は無いと思うが、「いつでも、どこでも、だれでも」という形で学習機会の提供を目指すのであれば、インターネットだけでも、単位を取得できる環境を整備することが今後の最重要課題のひとつである。そのことによって、現在の学生に対しても、学習の機会、仲間作りの可能性を広げることができ、さらには、国外にいる学習希望者にもその門戸を広げることが可能となるであろう。

このシンポジウムでは、世界の公開大学の代表者の講演を聞くことができただけでなく、質疑応答の時間も十分あった。そのことによって、より興味深い議論に参加することができた。アジア公開大学連合、あるいは国際遠隔教育会議の年会においても、多数の学長が参加し、基調講演が行われる。しかし、多くの場合、討論に十分な時間が割かれることが無く、せつかくの機会が未消化のまま終わってしまう場合も少なくない。また、このような実りあるシンポジウムが開かれることを期待する。



シンポジウムに参加した公開大学の代表



「世界公開大学学長シンポジウム in さいたま」

## 参加大学

### 英国公開大学 (イギリス)

1969年設立。学生数約18万人。世界公開大学の母と呼ばれる歴史を持つ大学。教材販売、資格認定サービスも行う。

### アサバスカ大学 (カナダ)

1970年設立。学生数3万7千人。質の高い授業、研究と地域社会へのサービス提供が特徴。

### スコタイ・タマティラット公開大学 (タイ)

1978年設立。学生数30万人。全12学部併設されており、学士課程・修士課程・博士課程を持つ。

### メリーランド大学ユニバーシティ・カレッジ (アメリカ)

1947年設立。学生数8万6千人。最新のバーチャルキャンパスを持ち、オンライン学習で100以上の学位が取得できる。

### マレーシア公開大学 (マレーシア)

2000年設立。学生数7万6千人。新しく開設された私立



英国公開大学  
地域学習センター

大学。学生の75%が30代以上と、アジアの中では平均年齢が高いのが特徴。

### ニュージーランド公開大学 (ニュージーランド)

1946年設立。学生数2万2千人。3学部(商、情報・社会科学、職場学習開発)が併設されている。

### テルブカ大学 (インドネシア)

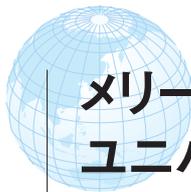
1984年設立。学生数68万人。高等教育の機会均等、拡大、質の向上と国家発展のための人材開発を目指す。

### 中央広播電視大学 (中国)

1979年設立。学生数382万人。高等機関の圧倒的な不足に対処するため、地方の40の電視大学を統轄する。

### 韓国放送通信大学校 (韓国)

1972年設立。学生数18万人。4学部22学科で750以上の科目が設けられ、モバイルラーニングも取り入れ始めた。



## メリーランド大学 ユニバーシティ・カレッジとの間で 国際交流協定を締結

教育研究支援部ICT活用教育支援課  
国際連携係員

宇都宮 光平



2009年11月15日、放送大学とメリーランド大学ユニバーシティ・カレッジとの間で国際交流協定が締結されました。調印式では、「世界公開大学学長シンポジウム in さいたま」にあわせて来日中のスーザン・アルドリッジメリーランド大学ユニバーシティ・カレッジ学長と本学の石学長との間で協定書のサイン・交換がおこなわれました。

当初、この調印式は11月16日に放送大学本部においてとり行なわれる予定でしたが、アルドリッジ学長に別の用務が入ってしまったため、急遽、「世界公開大学学長シンポジウム in さいたま」の会場である浦和コミュニティーセンター「コムナーレ」にて、シンポジウムの合間を縫うかたちで調印式が行なわれることとなったものです。

今回国際交流協定を締結したメリーランド大学

ユニバーシティ・カレッジは、24カ国で約9万4000人の学生が在籍しており、オンライン教育の分野に非常に力をいれている大学です。最新のバーチャル・キャンパスを持ち、760に及ぶオンラインコースを提供しており、オンライン学習のみで100以上の学位(学士・修士)が取得可能です。

今回の国際交流協定では、教材の開発協力、共同研究、共同学位プログラム、教職員・学生の交換などの実現に向け双方が努力していくことが確認されました。

放送大学のオンライン教育はようやく端緒にいたばかりですので、オンライン教育で世界の先端を行くメリーランド大学ユニバーシティ・カレッジから学ぶべき点は数多くあるでしょう。

今後の交流の進展にご期待ください。

平成21年9月4日（金）、韓国ソウル市のグランドハイアットホテルにおいて第一回の放送大学（OUJ）・韓国放送通信大学校（KNOU）・中国中央広播電視大学（CCRTVU、現在の英語名はOUC）による三カ国国際セミナーが開催され、本学からは石弘光学長、荻野博副学長、吉田光男教授、宇都宮光平国際連携係員、私の計5名が参加しました。

我々が到着した9月3日（木）に訪問したKNOUは、韓国内に14の地域キャンパスと35の学習センターを有しています。その中でも、ソウルにある地域キャンパスは最も学生数が多く、大学全体の学生数の4割強である7万7千人の学生がこの地域キャンパスに所属しています。我々が訪問した時に、ちょうど面接授業がいくつか行われており、それを見学することもできました。面接授業を見学して印象に残ったことは、放送大学に比べて学生の年齢層が断然低いこと、そして、女性の比率が圧倒的に多いことでした。

翌日9月4日（金）は全日セミナーで費やされました。このセミナーでは、講演者は母国語で講演を行い、日韓と中韓の同時通訳者が講演を通訳する、という形をとりました。60名程の参加者を前に開会挨拶がなされ、午前中のセッションとなりました。このセッションでは、「遠隔教育における技術的活用」というテーマでKNOUのデジタルメディアセンターのセンター長である李寧音先生、次にCCRTVUの呉国祥先生、そして最後に私が講演を行いました。李寧音先生の講演によると、KNOUのデジタルメディアセンターは、教育メディア研究所（1996年設立）とeラーニングセンター（2001年設立）を合併して2007年に設立されたもので、マルチメディア授業とウェブベース授業科目の企画・立案・制作・運営を一手に引き受けているそうです。

基本的にKNOUでは、テレビ・オーディオ・マルチメディア・ウェブベースの4種類の



メディアの授業があり、モバイルラーニング等の新しいメディア技術も積極的に取り入れようとしているところが印象的でした。CCRTVUの呉国祥先生の講演は、ここ数年欧米の教育関係者の間で話題となっているWeb2.0の教育活用のお話で、一般理論の話に終わっており、具体的にCCRTVUがどのようなメディア活用を行っているのかの話は含まれていなかったのが大変残念でした。私の講演では、放送大学のメディア活用の歴史・現状と今後の課題を話させていただきました。

午後のセッションでは、前述したKNOUのソウル地域キャンパスの李東國先生、CCRTVUの陳鵬先生、そして本学の荻野副学長がご講演をされました。李東國先生は、KNOUの地域キャンパスと学習センターの役割、そして、面接授業、試験、学生会、地域コミュニティへの貢献といった業務内容を語られ、CCRTVUの陳鵬先生は、CCRTVUとRTVUにおける学習センターの役割を語られました。特にCCRTVUの規模は大変大きく、また、地域によって様々な面で格差が存在することが強調されていました。荻野副学長は、放送大学における学習センターの歴史や役割を語られ、特にセンター所長自らが行った学生のドロップアウト防止や学生勧誘の事例を語られ、放送大学のヒューマン的な面が聴衆者に印象づけられていました。

各セッション後の質疑応答でも、最後の全体討論でも、フロアーを交えた活発な質疑応答・意見交換がなされ、異なった社会背景でなされている遠隔教育であっても、アジアの国における遠隔教育大学という面で、様々な共通課題が認識された1日でした。



# 「歴史の光に浮かび上がる 東アジアの過去・現在・未来」

「東アジア共同体」—この言葉が熱く語られ始めています。折しも、オバマ大統領が中国を歴訪中（11/17現在、対談の日）。そこで「ON AIR」でも東アジア—中国大陸・朝鮮半島・日本列島の関係を、歴史的な観点から見直してみました。対談者は、ともに放送大学教授で、韓国近世史がご専門の吉田教授と中国政治がご専門の西村教授。司会は、国際政治が専門の高橋教授です。（以下、敬称略）



（左から）西村 成雄 教授、吉田 光男 教授、高橋 和夫 教授

## 明治維新が変えた東アジアの“中枢と周辺”構造

**高橋** 出だしは柔らかく、ということでもまず吉田先生にお尋ねします。「チャングムの誓い」という韓国ドラマが話題になりましたが、歴史にどの程度まで忠実なのでしょう。

**吉田** いちばん答えたくない質問からきましたね（笑）。結論から言いますとほぼ100%フィクションで史実には基づいておりません。家内も見えており、コレはデタラメだ、こんな礼儀作法はない、なんて傍らでアレコレ私が言うものだから、「私は歴史を勉強してるんじゃない」と部屋を追い出される始末でした。それはともかく、私が朝鮮半島をフィールドにして勉強し始めた30年前からすると想像もつかなかったようなことが起きていると思います。これまで日本は極めて近い隣国のことを知らなすぎた。逆に韓国は日本のことを知っている。ソウルでは衛星放送のNHK第1・第2をほぼ完全に視聴することができます。情報の流れで言えば日→韓の一方通行にあったと言えます。それが「冬ソナ」と「チャングム」で劇的に変わった。韓国に関心を持ち、自分から勉強したり出かけたり、それが大きな広がりを見せています。50年後に21世紀を振り返った時、この現象は日韓関係の画期的変換と捉えられるのではないかと思うほどです。

**高橋** 面白すぎる話は当てにならないという一例

ですね。時代考証に耐えられるかの議論は別にして興味をひかれたのは、ときおりドラマで言及される中国からの使者でした。薬などを中国からもたらすとの設定でした。そこで、西村先生、伝統的に中国の王朝は朝鮮半島を、そして日本列島をどう見ていたのでしょうか。

**西村** 私は3段階に分けて考えています。一つは、日本が明治維新を経て東アジア世界の中で列強化する、その前段階。そこには「中枢と周辺」という構造があり、東アジア世界では中国が、文化、政治、経済、そして軍事的にも優位を占め、歴代王朝の皇帝が「天下」を支配しておりました。周辺は辺境と見なされ、冊封体制の下に置かれていましたが、王朝によって程度差はあるものの、互いにゆるやかな相互依存関係が保たれていたと見るべきでしょう。そもそも日本・朝鮮・中国・ベトナムには3つの共通性があります。同じ漢字文化圏です。儒教・仏教・道教といったいわゆる宗教的共通性。政治体制も、律令制を中国から吸収し発展させています。そういう中で、中国の周辺に対する認識は2つあります。一つは水が高き所から低き所に流れるように文化も低い所へ流れる、中国はその源泉であるという自己認識。もう一つは皇帝と国王との冊封関係。そのため周辺から見れば中華思想と見えるのですが、その両者の関係は一方的なものではなく中枢も、すなわち中国も周

辺から反作用を受け自らを変容させていたという観点が重要です。この状況を大きく変えたのが明治以降の日本です。欧米を中枢に置き東アジアを周辺化するというダイナミズムが働き、その中で日本がアジアを支配するというシステムが作られました。これが大きな第2段階でしょう。そして戦後期を経て、第3段階が今日の東アジア共同体構想と呼ばれる流れです。

**高橋** 欧米の衝撃によって旧来のシステムが変わるということですね。かつての日本人も黒船来航を機に苦勞しました。しかしながら、いかに朝鮮半島の人たちがこの問題と対面してきたかというのはあまり知られていません。

**吉田** 19世紀半ばのウエスタンインパクト（西洋の衝撃。アヘン戦争以後、中国が鎖国政策の放棄を余儀なくされる過程）以前の朝鮮にとって圧倒的に重要なのは中国です。対中国、対日本の外交使節の派遣回数を見れば歴然です。江戸時代・朝鮮後期の265年間を通じて朝鮮通信使は12回派遣されましたが、片や対中国では、清のみやこ燕京（北京）に派遣されたことから燕行使と呼ばれますが、冊封関係が終了するまで実に約500回に及びます。対日本のざっと40倍です。それがウエスタンインパクト以後も派遣されている。ところが日本への通信使は1811年、しかも対馬止まりで終わっています。江戸まで派遣されたのは1764年が最後ですから、幕末までの100年間、朝鮮の外交使節は江戸に来ていないのです。日本からはどうかと言うと、朝鮮には一度も外交使節を派遣していません。一方、清朝間では朝鮮の国王が代替りする度に清から冊封使と呼ばれる使節が派遣されています。比して日朝間は一方通行であり、しかも極端に少ないのです。これが当時の朝鮮の外交政策であったのです。近代の、ウエスタンインパクト以後の朝鮮は、たとえば、中国は中枢には違いありませんが、いちばん辺境にいた日本があつという間に世界の中心に近づく訳です。欧米が中心になることによって朝鮮も中国も等し並みに周辺に追いやられた。そこでその対応に苦慮するのですが、朝鮮は中国を中心軸に置く歴史があまりに長く密度が濃い。そこから抜け出すにはかなりの精神的なタフさが必

要でした。その制約の少ない分、日本は欧米文化を積極的に採り入れ、先に近代化を果たしてしまう。そのため、朝鮮半島の近代化というのは「直に欧米の異質な文化と対面しながら自分の頭で悩んで生み出すもの」とは異なるカタチにならざるを得ないんですね。わかりやすい例を引くと、「philosophy」という言葉が日本にやってくる。すると、この日本の文化にない言葉に対して、日本人はさまざまな考えを出し合い、最後には「哲学」という語訳に収まるのですが、その過程で自分たちの文化とは何だろう、欧米との文化との違いは何だろうと悩む訳です。それが新たな文化を生む源流になりうる。ところが朝鮮には、「philosophy」と「哲学」が同時に入って来るんですね。楽な分、文化的発展性という意味においては不利な状況になっていたのではないかと感じます。

#### 多様性に富んでいた朝鮮の対中国外交

**高橋** 中国大陸の歴代王朝と朝鮮半島とのつながりはどうでしょう。

**吉田** 隣接する巨大な中国との関係をどう構築するかは、朝鮮の宿命的な命題です。

日本よりもリアルに対峙せ

ざるを得ません。例えば、宋（960～1279年）の時代に、日本も朝鮮も宋を当然重視しますが、東北地方にモンゴル族の遼、女真族の金が次々に興ると朝鮮はそれぞれと関係を結び冊封を受けます。貿易や人間の交流を図り、宋に対しても関係を保持します。日本の対中国のあり方がやや一辺倒であるのに対し、朝鮮の対中国は1対1ではない、さまざまな対応をとっています。もう一つ例をあげましょう。先ほどの清との関係で言えば、初めは朝鮮は屈辱的な関係を強いられます。それまで明と安定的な関係を保っていましたが、南からの日本の攻撃（文禄の役・壬辰倭乱）による傷跡が癒えるまもなく、満洲族が興した清が北から攻めてきます。そして漢城陥落。国王は降伏の儀式を行わされ服従を誓わされます。それ以上に屈辱的だったことは、それまで野人と言って野蛮視していた



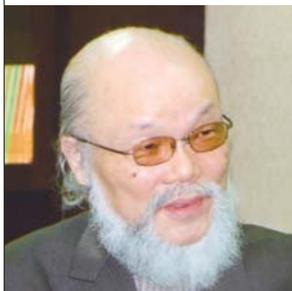
高橋 和夫 教授

満洲族の下に組み込まれたことでした。にも拘わらず、500回にも及ぶ使節を派遣する、しかも朝貢するというカタチで。心中は認めたくない、でもカタチとしては認める、そうしないと朝鮮の独立が保てない、といった苦衷を秘めながら。ところが100年も経つと、だいぶ認識が変わってきます。確かに支配者は変わったけれど、中国そのものは変わっていない。文化的には却って中華文明によって支配されている、というように。そして国内的にも、清朝から冊封されるということは正統な王朝であると国民が納得できる。朝鮮にとって中国というのは脅威ではあると同時に必要な存在だったのです。必要にしたのですね。この中国に対する多様性といったものも日本にはないものです。

### 多民族国家清朝の中で変容する中華思想

**高橋** 今のお話は清朝が漢文明の中で変わっていった、ということですか。

**西村** おそらくそうだと思います。17世紀半ばから、



西村 成雄 教授

清朝の版図を最大にした第6代皇帝乾隆帝の時代（在位1735～1795年）にかけて、中華思想の根幹である「華」と「夷」を区分する論理が希薄化してきます。その前の第5代皇帝の雍正帝は「大

義覚迷録」を著し、いかなる民族でも中国の文化、つまり「華」の文化を採り入れれば、「華」と「夷」の区別はなくなる、といった論理を展開しています。「夷」とされた民族をも統合し、中華の担い手としての正当性を主張したものです。清朝が中国を支配した当初は、朝鮮側では「夷」である満洲族が治める中国はもはや中国ではないと、いわゆる小中華思想（朝鮮が中華文明の後継者とする考え）が唱えられましたが、やがては満洲族だけでも政治体制や文化は変容して中華思想を受け継いでいる、と許容していったのだと思います。

**高橋** 中国大陸が、常に統一されていたわけではなかった。そして大陸で王朝が変わる度に朝鮮半島側も対応を変えた、ということですね。そこで話を現在に転じると、もちろん台湾との問題はあ

りますが。対照的に朝鮮半島が二つに分かれ中国大陸は一つです。

**西村** 1949年に中華人民共和国が誕生したとき、毛沢東の頭の中には東西南北の問題がありました。東に台湾、西にチベット、南にベトナム、北に朝鮮。朝鮮ではその翌年朝鮮戦争が起き、中国は社会主義的な国際連帯主義から北に義勇軍を派遣します。結果的に冷戦という大気圧が働いて、朝鮮もベトナムも北と南に分かれますが、それぞれ38度線と17度線であつての中華世界の影響力をとどめ得た。これはおそらく毛沢東が中華世界のアイデンティティの継承者であったからではないかと考えます。広い意味で中国というのは、太平洋を向けば海の中国、大陸を向けば陸の中国という清朝の時代をくぐり抜けたからこそ、現在の少数民族を含めた多民族的な一つの中国という流れができたと考えます。

**高橋** 中国は一つだという、非常に中国的な理論を作ったのが異民族王朝の清朝だった。歴史にはそういうアイロニーがあるんですね。

**西村** 日本での中国認識の一つによく言われるのが、中国は広すぎる、というものです。確かに面積はEUより広い。それなのにどうして一つの国家となっているのか、と。しかし歴史的に見ると、清朝を経て現在に通ずる政治的なプラットフォームが培われたのです。ですから中国の今を語る時、清朝の「200年中国」を視野に入れる必要がある、というのが私の持論です。もちろん、現在なお少数民族問題をめぐる政治的矛盾と遠心力が作用していることも視野に入れる必要があります。

### 中国のニュー・リージョナリズムと東アジア共同体

**高橋** 冷戦の産物として朝鮮半島の北半分は中国と同じ体制となったのですが、経済面で言うと南側の方がはるかに発展している。この南との貿易の方に実利がある。この建前と実利の間で中国はどのような対応をしてきたのでしょうか。

**西村** 中国は1978年鄧小平時代になってから市場経済化に舵をきります。その後、1989年ベルリンの壁が崩壊し、マルタ会談で米ソ首脳によって冷戦は終結します。そのポスト冷戦時代の幕開けに先立つ10年ほど前から、鄧小平は社会主義政治体

制を維持しながら、経済発展をその支配の根拠に置こうとしたのです。これは韓国、台湾、アセアン諸国の経済発展を間近に見ることから始まりました。華僑からのインパクトもありました。このプロセスには、政治的民主主義を要求する社会的運動を伴っていました。しかし、イデオロギーよりも経済の論理を優先させたのです。現在の高度成長ぶりを見るとこの経済重視路線は成功したと言えるでしょう。そして91年のソ連解体後の92年に韓国と国交回復を果たします。

**吉田** その国交回復の際に私はソウルにいたのですが、それは大変な騒ぎでした。しかし、そこに至るまでにはかなりギクシャクしたようです。かつて中国が北に派遣した義勇軍と戦った人たちの間には、大きなシコリ、共産主義に対する恐怖感といったものがありましたから。

**高橋** 日本では政権が変わって「東アジア共同体」との議論が盛んになっています。朝鮮半島、中国大陸の方々は、この議論をどう見ているのでしょうか。

**西村** 中国は、地域共同体という考え方に、90年代後半から積極的になっています。そのキーワードの一つが「ニュー・リージョナリズム（新地域主義）」です。米国との2国間を基軸としつつ、同時に周辺部にも意識を及ぼすようになった訳です。アセアン10とFTA（自由貿易協定）を結ぶような枠組みをセットし始めたり、将来的には日中韓でFTAを結ぶような共同体も模索しています。今年のG20では中国の積極姿勢が目立ちました。中国はメガ・リージョンを超えてグローバルなレベルへ進もうとしているように見えます。

**吉田** 韓国には北朝鮮問題があり、常に自分たちの方向性を決めるときに大きな要素になっています。金正日体制のもとではドイツのように統一はできない、常に危険を孕（はら）んだまま進まざるを得ない、というのがおおかたの見方です。北朝鮮への高まる中国の影響力を自分たちの手で止めないといけない、という議論もあります。そういう中で、東アジア共同体が実現可能な論点として議題に上がるには、北朝鮮をそれなりに総轄できるような結果が出た時ではないでしょうか。そうやってはじめて安心して議論の中に入って行けるのです。

翻って日本も、北朝鮮と国交回復していません。東アジア共同体を考えると、この問題は大きな「穴」となっています。

**高橋** おっしゃるように、朝鮮半島では冷戦は終わっていません。ヨーロッパでは21世紀なのに、朝鮮半島には休戦ラインという「ベルリンの壁」が残ったままです。

**吉田** 朝鮮戦争は1953年に休戦はしても、終戦という決着には至っておりません。それから東アジア共同体と言ってもヨーロッパとは東アジアは構造が異なり、



吉田光男教授

EUと単純に併視されるものではありません。中国という巨大な国と対等に、平和で安定した秩序のもとで共同体ができるのかどうか。私には、それぞれの独自性を尊重したゆるやかな同盟、の方がピンとくるのですが。

**西村** 東アジアには20世紀的な冷戦の構造が残っている、というEUとの違いを認めた上で、あえて東アジア共同体という議論が政治的に出された意味は大きいと思います。戦後、経済的相互依存性が高まった結果、初めてそのようなプランが出てきた。これは東アジアにとっては画期的なことです。ただ、予測しうる3つの困難があります。一つは20世紀前半に日本とアジアの間で起きた戦争を巡る歴史認識問題。もう一つは、東アジアは非常に多様であるということ。この複雑性をどう調整できるのかという政治的能力が問われています。三つめは、政治体制・政治的価値観の違い。この三つが複雑に絡み合っささまざまな困難を生み出す要因となるでしょう。それだけに、いかに政治的にシンボライズされた「構想力」を打ち立て、具体化できるか、制度化できるかが問われていると思います。これまでの自然発生的な経済的相互依存性だけではない、もう一歩前に踏み出すための意識性が求められている、今その変換点にあるのだと思います。

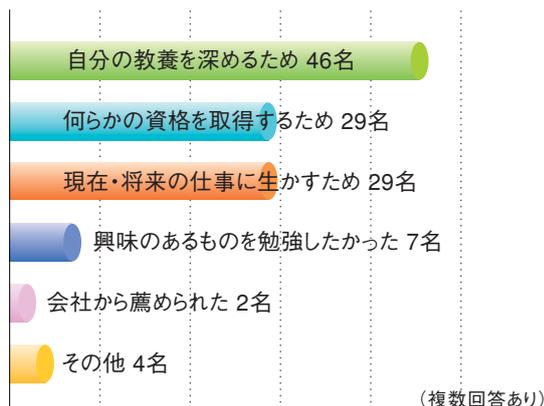
**高橋** 東アジアが単なる地理的な概念から、それ以上のものに発展できるのか。今日はお二人に重い問いかけをいただきました。

## 30代〈選科生〉〈科目生〉入学者100人に聞きました

# 資格取得 自己投資 スキルアップ 目的をしっかりと持っています！

シリーズでお届けしている入学者の声レポート、今号は30代の男女100人の方にご協力いただきました。30～39歳の選科生、科目生ですが、仕事を続けながら、目的意識をはっきり持って入学した方が中心です。資格取得、現在、あるいは将来への自己投資、スキルアップなど、それぞれの環境の中での進路を見据え、期待を持って学ぶ姿が浮かび上がってきました。

### 1 放送大学入学の目的は？



- 「教養の幅を広げ深めるため」がトップですが、次のランクの、仕事関連の目的との重複回答が圧倒的に多く、実践的な科目以外でも、将来に向けて一般的な知識の幅を広げるという要望が強いことがうかがわれました。
- 「何らかの資格を取得するため」「現在・将来の仕事に生かすため」が両方で半数以上を占め、具体的な目標に向けて入学した方の比率が圧倒的に高いのがこの世代の特徴です。認定心理士、臨床心理士、学芸員、エキスパート、税理士、社会教育、福祉教育など様々な資格、科目が選択されています。
- 動機としては、“転職を目指して”という人も多く、キャリアアップの手段として放送大学を選んでいきます。また、会社内での希望部署異動のためのスキルを身につけ、アピール材料とするため科目単位取得を目指すという回答も目立ちました。
- 最近の経済状況を反映して、会社から放送大学入学を勧められたケースもあり、実務的な目的で科目を学ぶ傾向が強まっているようです。

### 2 放送大学を選んだ理由は？



- 「自宅で手軽に学習できる」を選んだ人が多いのは、どの世代にも共通ですが、仕事を続けながら学ぶ学生が圧倒的に多いこの層では、断然トップとなりました。「費用が安い」「受講したい科目・教授がいる」はともに、大きな選択条件で「限られた収入の中で必要な科目を学ぶためには、費用は絶対条件」という回答もありました。
- 「学習センターが利用できる」のウェイトが他の世代に比べて低いのは、やはり時間的な制約が大きいようですが、「面接授業を含めて、時間が取れば是非利用したい」という要望もありました。

### 3 放送大学への要望

- 1 インターネット配信科目の増加
- 2 通学可能な近隣地域への学習センター設置
- 3 開所時間を長く
- 4 単位認定試験の日程の弾力化
- 5 放送教材の貸出期間、本数の弾力化
- 6 科目申請、受講科目選択、履修制度の案内などのケア全般

- このほかにも、たくさんの要望をいただきました。インターネット配信については、今後も拡充に努力していきますが、その他の要望についても、可能な限り学生の学習環境の便宜を踏まえ、対応を検討していきます。

## 科目選択の傾向は？

### 男性

- 1 簿記入門
- 2 組織運営と内部監査
- 3 英語の基本
- 4 問題発見と解決の技法
- 5 身近な統計
- 6 基礎からの英文法
- 7 マーケティング論
- 8 社会と知的財産

### 女性

- 1 心理学入門
- 2 英語の基本
- 3 問題発見と解決の技法
- 4 基礎からの英文法
- 5 心の健康と病理
- 6 心理臨床の基礎
- 7 初歩からの生物学
- 8 身近な統計

●男性は、現在の仕事に役立つ実務的な科目を選択する傾向が顕著です。また、将来のステップアップに備えての経営・組織管理関係の基礎科目が多いのも特徴でした。●女性は、男性と同じ傾向にはありますが、中でも「心理学」関連の科目が目立ち、左の表にあげた科目以外にも「人格心理学」「記憶の心理学」など上位にランキングされた科目が多く、認定心理士、「エキスパート」などをを目指す人以外にも人気が高いようです。●ほかにも、「資格取得のための実践的な講座の充実とそのため科目選択の具体的なアドバイス」を希望する人も目立ちました。●語学では英語以外に「中国語入門」「韓国語入門」が男女とも増加傾向にあり、ビジネスシーンでの必要度が高まっている傾向にあるようです。●今後の希望科目には「IT関係科目(パソコンスキル含む)」「環境関連科目」「会計・経営関連科目」が挙げられました。

## 30代からひとこと

### 「私たち、こんな夢と情熱で学んでいます」



**受講科目** 現代環境法の諸相、組織運営と内部監査、マーケティング論、企業の組織・取引と法

仕事と関連する科目を中心に選択。将来的に仕事に生かすためにも、独学ではなく、しっかり勉強したかった。友人から勧められ放送大学を選んだが、インターネット配信科目は便利。教師、科目によるが退屈だと感じる科目がある。以前あった「経営工学総論」などメーカー関連従事者には取りたい科目なので復活してほしい。環境関係の科目が充実していてよい。基礎科目は充実しているがその次のレベルの科目をさらに充実させてほしい。学習センターは駅から近いが、狭くて窮屈な感じ。面接授業は時間的にとれない。(35歳/男性/自動車部品メーカー営業)

**受講科目** 教育心理学概論、博物館概論、経営学入門、精神分析入門、住まい学入門、その他

仕事に生かせると思い入学したが、幅を広げるために、それ以外の勉強もしてみたかった。経営者から社会保険労務士資格を取るよう言われた。将来、大学院にも入りたい。放送大学は、仕事と両立できること、費用が安いことで選んだ。IT関連科目の充実と、社会保険労務士など、経済、経営関連の資格がほしい。今の仕事に役立つのはどの学部、どの科目なのか相談できる部署がほしい。卒業するまでフォローしてくれるとよい。(34歳/女性/IT関連会社役員・事務、営業サポート)

**受講科目** 人格心理学、スペイン語入門、保育カウンセリング、心の健康と病理

職場に割引制度があったのがきっかけで入学。心理学、とくにカウンセリングを学びたかった。初めは意識していなかったが、資格を取る道(認定心理士、エキスパート)もあると聞いて、継続して受講を続けるつもり。趣味、教養ではなく、具体的に仕事に役に立つような測量学、森林関連の科目もあればいいと思う。(35歳/女性/林業関係技術系)

**受講科目** 著作権概論、博物館概論、博物館経営・情報論、博物館資料論

3年次編入で、3月に全科生卒業したが、物足りなく、博物館に興味を持って再入学。エキスパート取得を目指している。放送大学は、学習センターが近く、科目数も多かったので選んだ。時間的に余裕がないので、ネット配信を拡充してほしい。ラジオ科目は録音して通勤時に聞けるので便利。面接授業は日時を調整するのが大変。複数回あるとよい。(38歳/女性/出版社)

**受講科目** 基礎発達心理学、心理学研究法、心の健康と病理

社会福祉士の資格を取得しているが、カウンセリングなどの心理学関連の資格もほしいと思って入学した。授業はわかりやすかったが、時間的な制約を考えると、すべてネット配信ができるとうい。取りたい科目はもっとあったが、どの科目をどれだけ取ればいいのかかわからないところがある。(37歳/女性/福祉施設・生活指導員)

**受講科目** グローバル経営戦略

会社から、放送大学でスキルアップのための勉強をするよう言われた。海外取引が多いためこの講座を選んだ。景気がおもわしくない状況で、今後このようなケースが増えてくると思う。結果的には勉強する機会をもらえてとてもよかったと感じている。次も経営学関連の科目を取るつもり。(34歳/男性/設備機器メーカー営業責任者)

**受講科目** 市民と社会を生きるために、基礎からの英文法、環境の科学、環境の科学('09)、コンピュータのしくみ、その他

学士資格の取得と、現在の仕事に役立つ科目を選択。組織をまとめていくために必要な知識も身につけたいと考えている。入学に際しては、他の通信制大学も検討したが、費用がかなり違うので放送大学にした。面接授業は選べるころはいいが、追加登録ではなく初めから選べるようにしてほしい。IT関連の科目の充実を望む。課目の改定が4年に1度というのはあきすぎではないか。(38歳/男性/コンピュータSEサプリーダー)

## 教育と心理の巨人たち('10)

心理と教育 教授 岩永 雅也    心理と教育 准教授 星 薫



岩永 雅也 教授



星 薫 准教授

ペスタロッチ、デューイ、フロイト、エリクソン…子どもの教育や人間の心理に少しでも興味を持ったことのある誰もが一度は必ず耳にする“巨人たち”の名前です。教育学や心理学の入門書を開いてみたことがあるという方なら、ペスタロッチの『隠者の夕暮』とか、フロイトの『夢判断』など、代表作のタイトルまで思い出されるかもしれません。でも、そうした巨人たちの業績をじっくり読んで経験はあまりないでしょう。本科目では、そうした教育と心理の巨人たちを各回で取り上げ、彼らの代表作をご一緒に読みながら、それらの学史上の意義と社会に与えた影響などについて理解していきます。

でも、それはもう過去の本だと思われる方も多と思います。確かに、100年以上前の巨人も少なくありません。それよりも最新の本が読みたいという

気持ちももつともです。でも、巨人たちが生涯をかけて展開した議論は、現代でもなお輝きを失わず、われわれに多くの重要な示唆を与えてくれます。その上、巨人たちがそれぞれの時代をどのように生き、何を見て何を感じ、何を目指してどんな論理を展開したか、それを自分なりに追体験してみるのも、大事なことです。私たちが直面する現代の教育事象や心理現象を理解する上で、決して無駄にはならないと信じます。

巨人たちの本は、時として難解です。そんな時のためのガイドブックとしても、この科目を利用していただけたらと思います。ご一緒に巨人たちの豊穡な世界を巡る旅に出てみませんか。

## 多様化時代の労働('10)

社会と産業 准教授 原田 順子



原田 順子 准教授

昨年来、世界同時不況を契機に「派遣切り」が社会問題になりました。現在、就業者のおよそ8割が勤め人であり、そのうち3人に1人がパート・アルバイト、派遣、請負、契約、嘱託など非正規の雇用形態にあてはまります。かつて、長期雇用、年功的賃金体系、企業別組合は、わが国の人事慣行の「三種の神器」といわれ、経済成長の源泉とみなされていました。しかし、これらの特徴の埒外にある人々が、いつの間にか「3人に1人」にまで増加しました。

授業では、ヨーロッパにおけるパートタイマー事情も学習し、日本の行く末について考える助けとします。

また、多くの職域において女性比率が高まり、ワーク・ライフ・バランスを人事施策として無視しえな

い企業がずいぶん増えました。日本企業の海外進出、あるいは国内の外国人労働者の力をどう活かすかということも課題です。さらに、これからは育児・介護休業法や高齢者雇用安定法の改正により、短時間正社員や60歳以上の労働者が増加して行きます。また労働者の属性（性別、国籍、年齢など）の多様化と同時に、評価・賃金の個別化が進展しています。経営環境の変化から、1990年代以来、いわゆる成果主義の流れが生まれました。戦後の賃金制度の歴史、成果主義の潮流も解説します。

「モザイク職場」と称される現代の労働事情について理解を深めたいと思います。

## 住まい論（'10）

放送大学副学長 本間 博文 芝浦工業大学名誉教授  
(放送大学 客員教授) 畑 聡一



本間 博文 副学長



畑 聡一 名誉教授

住まいは、日常生活における安全、快適、安心そして健康をサポートする器として機能することが条件です。しかし、今日のような複雑で高度な社会では、技術的な性能を確保するだけでは不十分です。むしろ、住まう人の精神的な安定やゆとり、生きがいのようなメンタルな要因を充たして、積極的な住まいかたを引き出すことが課題です。

私たちの住まいがどのような立ち位置にあり、住まいの何を受け継ぎ、何を後世に伝えていくべきか、その判断もつかずに国籍不明の生活空間を生み続けてきた事態を、まずは改める必要があります。人を除く生物の生育環境は地域の自然環境に長い時間をかけて適応したのですが、人の生活環境だけはそのような生態系のバランスから外れて独自に展開し、環境に多大な負荷をかけてきました。だから、地域

環境の保全や利用のしくみのなかで、住まいのありかたを問い直す必要があるのです。

講義ではこのような問題意識をもち、次のように論じています。①日本の住まい文化を乾燥地域やアジアの風土との関係で相対的に捉え、②東アジアを含めて日本の伝統的な住まいと住様式を問いなおし、③家族や地縁集団のありかたとともに新たな居住形態を模索し、④都市化とともに招来した近代的な集住計画の経緯と展望を示し、さらに、⑤地球環境問題に答えて持続可能な社会を実現する住まいについて考えています。これらの5つの切り口を通して、住まいに関する新たな視点や捉え方を示し、住まいのありかたを提言します。

## 社会と銀行（'10）

慶應義塾大学教授 吉野 直行  
(放送大学 客員教授)



吉野 直行 教授

日本人の金融資産の約6割は預貯金として金融機関に預けられ、銀行等を通じて、貸出や国債購入などに回されている。このように社会における銀行の役割は大きい。

アメリカのサブプライムローンに端を発する世界的な金融危機は、銀行が将来の住宅価格の上昇期待をもとに、低所得層向けに住宅ローンを貸出し、元本と金利の返済が可能であると予想して貸出を進めたことが、最初の原因である。それを証券化したことによって、世界的に販売がなされた。その後、住宅バブルの崩壊によって返済が出来なくなった住宅ローン証券は不良債権化し、大きな損失を生み出してしまった。日本でも1980年代の後半には、土地を

担保とする銀行等の貸出が急増し、地価の下落によって不良債権となり、信用組合などの破たんを引き起こしている。

本講座では、銀行の役割、金融政策の波及、金融庁による銀行監督、デリバティブなどの新しい金融手法、国際金融と為替、バブル発生の原因など、4名の講師（吉野直行・翁百合・福田慎一・前多康男）によって、それぞれの専門分野に関する講義がなされる。

この講義を聴くことにより、社会と銀行の関わり、金融市場と銀行の関係など、金融に関する幅広い知識を習得していただければ幸いです。

## 和歌の心と情景（'10）

人間と文化 教授 島内 裕子 東京大学大学院教授  
(放送大学 客員教授) 渡部 泰明



島内 裕子 教授



渡部 泰明 教授

「和歌の心と情景」は、国文学の科目としては、初めてのテレビ科目です。「日本文学をテレビ授業で」という念願が叶いました。万葉・古今・百人一首など、数々の歌集。人麻呂や小町、西行や実朝など人気の高い歌人たちや、本居宣長の和歌研究。さらには晶子・白秋・茂吉といった近代の歌人たち……。和歌の世界は、日本文学を貫く豊かな流れであると同時に、現代のわたしたちにも、とても身近な存在です。

そのような「歌の心」と「歌の情景」を、テレビならではの工夫を凝らした授業によって、わかりやすくお話しします。たとえば、その名も「夕顔町」という京都の町中をロケで訪ねたのは、ちょうど初夏のたそがれ時でした。そこには実際に白い夕顔の花が咲いていて、感激もひとしおです。「伊勢物語と

源氏物語の和歌」の回で、この美しい映像を御覧いただきます。また、歌人としての兼好を描いた、珍しい掛軸などもスタジオでご紹介します。

和歌の世界は、文学の領域だけでなく、日本文化の全般とも深くかかわります。歌合や古今伝授の意義について、最新の研究を盛り込んでいるのは、この科目の大きな眼目です。また、和歌の理念は、六義園のような大名庭園にも表象され、和歌の情景は絵巻物にも描かれています。さまざまな「かたち」をとりながら、人間の心のあり方や四季折々の自然を感じ取らせてくれる「和歌の心と情景」を、一緒に、楽しく学びましょう。

## 分子の科学（'10）

岡山学習センター所長 齋藤 清機 埼玉大学名誉教授  
(放送大学 客員教授) 時田 澄男



齋藤 清機 所長



時田 澄男 教授

人間の想像を遥かに超える昔々、宇宙の片隅で超新星爆発が起こり、その残骸が集まって太陽系惑星が生まれたと言われています。地球は、このようにして47億年前に元素の集まりとして生まれ、元素が分子を構成する必然と分子の進化を経て現在の姿にたどり着きました。分子を紐解くことは、従って私達自身を認識する作業であるし、全ての物質文明を見つめ直す作業でもあります。「分子の科学」は、化学の原理を明確にしなが、分子の世界を様々な角度で紹介し、分子レベルでの認識の重要性を届けることを目的としています。

印刷教材の第1章では、「分子の定義」をひろく捉えるという考え方を紹介しています。第2章から第4章では、「仮説としての分子」が「実体としての分子」として認識されるに至った経緯を解説して

います。第5章以下の各章では、石油化学工業、合成高分子、糖質、医薬品、遺伝子、エネルギー等を主要なテーマとして、可能な限り最先端の分野を取り上げ、分子科学の意義を伝えています。加えて、ラジオでは伝えることが困難な部分をDVD-ROMに納め、補助教材として提供しています。

化学は、大きな命題が解決された成熟した科学ではありますが、現在でも、ある目的のためにその原理が活用されています。分子を合成する手段は、化学の原理によって提供されます。地球規模の広範囲な課題の解決には、分子レベルでの視点が不可欠であるということです。皆さん、分子の世界を覗いてみませんか。

## 社会福祉研究（'10）

生活健康科学プログラム  
教授 松村 祥子



松村 祥子 教授

21世紀初頭のわが国で発生・拡大している新たな生活問題に対して、社会的介護体制、少子社会型子育て支援、障害者の自立促進、新貧困対策等多くの社会福祉の政策・制度が展開されています。しかし、なかなか効果はあがらず、生活不安は増大しています。

60余年前（創設時）には予想できなかったほど、社会福祉は大きな制度になりましたが、政策的には、家族・地域・市場・行政からの需要への短期的対応の繰り返しでした。経済成長の余剰という面も否定できないでしょう。

「本当に人々の生活改善に資する為に、社会福祉研究が貢献してきたか」と問われた時、自信をもって

yes！といえる研究者は多くないと思います。

この講義では、社会福祉の直面する経済的、社会的、政治的、思想的状況を踏まえて、「社会福祉研究にはどのような視点と方法が必要であるか」についての強いメッセージを入れました。社会福祉に興味をもち、それぞれの立場で研究してみようかなと思われる方が、できるだけシャープで本質的な取り組み方ができるように願っています。社会福祉学は生涯学習によって真の発展をするので、放送大学での社会福祉研究の広がりや深まりを大いに期待しています。

## 人類学研究（'10）

文化情報学プログラム  
教授 内堀 基光

文化情報学プログラム  
教授 本多 俊和  
(スチュアート・ヘンリ)



内堀 基光 教授



本多 俊和 教授

人類の直面する地球大の環境問題を、人類学的な意味での文化と社会の文脈のなかで考えていこうというのがこの講義の眼目です。世界の多様な環境のなかで暮らす人々の伝統的生活様態とその価値観が当該環境の保全に寄与してきたことはよく指摘されていますが、外的要因によって環境変化が起きた場合、こうした文化はどのような変容をこうむるか、あるいは文化そのものに環境変化に対処する可能性がひめられているか。これらのことを考えることは、環境問題を単に物質的・技術的状况として見るのではなく、人々の生活に意味づけを与える文化の問題として見ることに通じます。これを山岳、草原、森林、極北といった生態環境の多様性と、水、病気、空気など個別問題の性質に応じて具体例を示しつつ

講義したいと考えています。本講義は「文化人類学」の講義なので、講義の眼目としている環境問題だけでなく、この具体的トピックをとおして、人類文化というものがある特性をもっているか、その機能はいかなるものかを考えられるようにしたいと思います。大学院の科目としては本講義が文化人類学としては唯一のものなので、自学を促進しうる方向で、受講者に問いかけをおこなうような授業を作ったつもりです。とりあげる話題、材料が多様な生態系と環境にわたるので、こうした人類文化全体への問いかけによって、個別性のなかで問題意識が拡散してしまうことを避けることを狙っています。

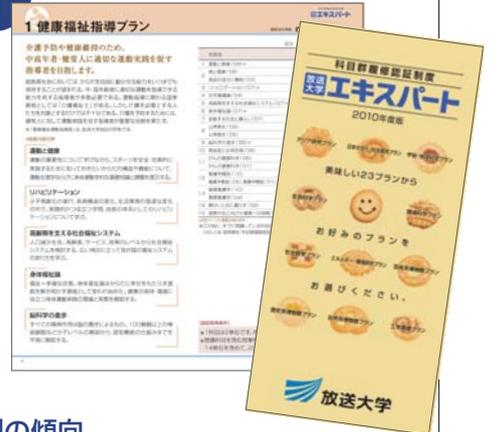
2006年度からスタートした「放送大学エキスパート」（科目群履修認証制度）も4年目を迎え、認証状発行も5409（'09年10月1日現在）を数えるにいたりしました。

中にはなんと10プランを取得された方もおり、学習の大きな目標、励みになっている状況が伺えます。また、認証状をボランティア活動の幅を広げるために活用したり、仕事のステップアップにつなげたりと、実践的に役立させている方も多くいらっしゃいます。

ますます広がりを見せる「放送大学エキスパート」23プランの現状をお伝えします。

	認証状名	認証数
1位	健康福祉運動指導者	948件
2位	心理学基礎	732件
3位	福祉コーディネーター	474件
4位	次世代育成支援	388件
5位	歴史系博物館活動支援	337件
6位	社会企画士	291件
7位	生命人間科学	252件
8位	芸術系博物館活動支援	202件
9位	市民政策論	187件
10位	経営の理解	144件

平成21年8月現在



## ●年齢別・男女別の傾向

1位の「健康福祉運動指導者」は50代、40代、3位の「福祉コーディネーター」は50代、60代に多く、「福祉のボランティア活動に役立てたい」、「地域の社会奉仕が目的」という意見がありました。2位の「心理学基礎」は40代の女性が圧倒的に多く、次いで50代、30代の女性の順。「認定心理士の資格取得のきっかけに」という20代の女性もいました。4位の「次世代育成支援」も同様に50代、40代の女性中心です。5位の「歴史系博物館活動支援」8位の「芸術系博物館活動支援」は各年代に支持されていますが、芸術系は女性、歴史系は男性と人気が分かれています。

2009年度に限ると、「心理学基礎」が1位になり、新たに「異文化理解支援」「食と健康アドバイザー」がベスト10入りしています。

## STUDENT VOICE

### エキスパートを どう活用していますか？

放送大学入学したばかりのころは、あまり考えず手当たり次第に科目を取っていました。「エキスパート」の制度ができて目的がはっきりしたし、自分の学んでいく方向に手ごたえを感じられるようになりました。現在は、地元のパレーボールチームで指導者として教えていますがこれもエキスパートを学べたからだと思っています。

50代女性/静岡県/全科履修生  
「健康福祉指導」「食と健康アドバイザー」

塾で小学生から高校生までの生徒に教えています。学習する立場を忘れたくないという思いで取得しました。自分自身の幅が広がり、子供たちにも自信を持って接する事ができるようになりました。

40代女性/沖縄県/全科履修生「市民活動支援」

技術系の仕事をしていたのですが、リタイアを契機に昔から興味があった「歴史系博物館活動支援」を取得しました。現在、県で埋蔵文化財調査を手伝っています。放送大学の学習が大変役立っていますが、実習関連の講義がもっと充実すればよいと思います。ボランティア活動の紹介などがあればいいですね。

60代男性/神奈川県/全科履修生「歴史系博物館支援」

# タオル一本で色々な事を学べる秘湯研究会

## 岩手学習センター〈秘湯研究会〉

秘湯研究会は平成9年4月にサークルとして正式認可を受け、活動を始めてから今年で12年目となります。現在の会員は30才代～70才代までの19名で銀行員、看護師、バスドライバー、俳人、俳優など多士済々。

当研究会は秘湯と称する温泉地を訪ね、泉質を話題に入浴効果を体感しながら会員相互の親睦と交流を図ることを目的としております。また各地の歴史、文化を学び、グルメを楽しみ、現在まで53ヶ所の「日本秘湯を守る宿」を探訪しております。残念ながらそのなかには去年の岩手・宮城内陸地震で姿を消した温泉場も幾つかあります。活動範囲は東北6県にまたがり、近場は日帰り、遠方は一泊二日の行程で研修旅行を実施しております。

今年実施した研修旅行の一つに、NHKテレビドラマ「天地人」で人気が出た直江兼続展の見学も兼ねた一泊二日の秘湯探訪があります。

### 《当日のメモ帳より》

6月27日（土）岩手学習センター前を10人乗りのワゴン車一台で午前8時出発。ETCを利用し東北自動車道の福島西インターに到着したのはちょうど正午。昼食はすでに八夢というレストランを予約しておいたがカーナビは思い通りに機能しない。何とか探し当て着いてびっくり、敷地1300坪もあるという庭園に囲まれたお屋敷。築200年以上の建物を改造したもので、落ち着いた大人向きの雰囲気がある。部屋に通されたがTシャツ姿では気後れがする。

隣の部屋では30人程が正装して食事をしている。食事は先付からデザートまでの会席料理、ランチとはいえかつてない豪華メニューであった。

次に山形県米沢市へ移動。上杉神社を参拝した後、天地人博（直江兼続展）を開催している上杉博物館に入ったが予想以上の混み具合で人が溢れている。集合時間も気になり、「愛」だけは目にしたが人垣の後をただ通過する羽目となった。たまにはつかないこともある。

もう午後4時を過ぎている。山奥の温泉場は明るいうちに到着するのが鉄則、宿には到着予定時刻を入れておく。本日の目的地は西吾妻山中腹にある一軒宿。標高1,126mに位置する秘湯新高湯温泉である。蛇行する山道を小1時間ほど進んだ所に斜度20度以上もあると思われる急坂にでくわす。登り詰めるとその上に宿が見えた。心配してか宿の主人が玄関先で我々の到着を待っていた。部屋に荷物を置くなり露天風呂へ直行、疲れも一気に吹っ飛ばす至福のひとつ。内風呂の他に露天風呂が3ヶ所あり、女子専用の風呂もある。泉質は硫黄泉、切り傷・やけど・神経痛等に効くという。食事もしみの一つ。県産和牛陶板焼き・岩魚塩焼き・季節の山菜等“山奥のかあちゃん手料理”でもてなしてくれる。岩魚の骨酒で一層賑やかになり、下界の喧騒を忘れさせてくれた。やっぱり秘湯はいい。

（秘湯研究会代表 島村凡平）



秘湯研究会発足10周年を祝う（福島県・甲子温泉）



松尾芭蕉「奥の細道」ゆかりの地（山形県・赤湯温泉）

青森学友会と岩手秘湯研究会の交流会（秋田県・御生掛温泉）



# 交通至便な愛知学習センター

愛知学習センターは中京大学センタービルの4階に設置されています。この建物は名古屋市営地下鉄八事駅の5番出口前にあり、傘が不要な交通至便なところにあります。また、近隣は名古屋市の文教地区に指定されていて、近くに名城大学・南山大学・名古屋大学があり学習環境が整った地域です。現在2,584名（大学院を含む）が在学中で、これまでに大学院修了者61名を含めて1,280名の方が卒業されました。視聴学習室や図書室の利用だけでなく、いろいろな目的で一人でも多くの方にセンターを利用させていただきたく、いくつか特徴的なことを紹介します。

## 学友会とサークル活動

学友会は平成16年に設立され、毎年、交流会・研修旅行・茶話会を行っています。交流会は学位記授与式の終了後に「卒業生を送る会」として開催され、所長・客員教授や在学生有志ら約50名が集まり、軽食やビールで歓談して卒業生を送り出しています。また、研修旅行は企画から運営まですべてを校友会が行い、今年も多数の新入生の参加を得て滋賀県長浜市へ出かけ、総持寺の住職から説法を聞いたりして、安土桃山時代を多少なりとも身近に感じることができました。

サークルは愛ネット、サイコロジー、おしゃべり好学、梟の会、学遊NurNur、翠の会、コーラスの7サークルあり、それぞれが活発に活動しています。コーラスサークルには「学位記授与式」や「入学者の集い」で放送大学学歌などを合唱していただき、卒業生や新入生に大き



学生研修旅行（総持寺）



交流会（卒業生を送る会）

な感銘をあたえています。また、7月7日には七夕コンサートを開催し、一般学生の参加も得て日頃の練習成果を発表

七夕コンサート



しています。練習日にはセンター内にBGMのよう



絵画企画展の受賞作品

な歌声が流れ、学び舎の雰囲気に浸ることができます。翠の会では毎年センター内のミニギャラリーで絵画展を主催し、一般学生らの投票により所長賞等の三賞を選び、表彰式でトロフィーを授与しています。絵画展には一般学生や卒業生も出品でき、またギャラリーには学生の作品を常時展示しています。

## クラス会

愛知学習センターの特色としてクラス会があります。2005年度後期入学生から



08年度クラス会

毎年クラス会を立ち上げ、現在5クラスあります。新入生の横の繋がりをつくり、学習方法について話し合ったり、先輩から単位認定試験の傾向と対策などを聞いたりして、入学時に感じた不安の解消に役立っています。しかし、どのクラス会でも最初は50名ほどの出席がありますが、最初の単位認定試験が終わると出席者が減ってしまいます。そこであるクラス会では、クラス会と映画鑑賞をセットにして参加者集めの工夫をしています。講義室の大型スクリーンで名作映画を上映することにより、一般学生の参加も得て映画鑑賞会が定着しつつあります。

最後になりますが、愛知学習センターのホームページでは「センターからのお知らせ」や「センター日誌」をリアルタイムで掲載していますので、ぜひともご利用ください。

## 愛知学習センター

名古屋市昭和区八事本町101-2（中京大学センタービル4階） ☎466-0825  
地下鉄鶴舞・名城線「八事」駅下車⑤番出口前 電話：052-831-1771

## ふれあいと学びの拠点・福島学習センター

東北地方の南部、福島県中通りのほぼ中央に位置する郡山市は人口33万8,700人余り、県内ではいわき市に続く第2位の都市です。商工業が盛んで、東北地方でも有数の経済圏を形成し、交通の要衝でもあります。福島学習センターは郡山女子大学構内、その名も「もみじ館」にあります。「もみじ館」は大学の本部キャンパスから、国道49号を挟み、歩いて5分の所にあり、緑に囲まれた3階建の瀟洒な建物です。すぐ隣には、1,300本の桜で名高い、広大な開成山公園があり、素晴らしい環境に恵まれています。

## 学生とのコミュニケーションを大切に

福島学習センターには、現在、7名の常勤スタッフと約800名の学生がいます。私たちが最も心がけていることは、学生との円滑なコミュニケーションとアット・ホームな雰囲気づくりです。職員はそれぞれ職務を分掌しておりますが、学生との関わりが深い教務事項に関しては、全員が懇切丁寧をモットーとして対応しています。当センターの特徴は職員の勤続年数が高いことで、学生を熟知できるのがメリットです。学生とのコミュニケーションは良好で、センターで何か行事をするときなど、すぐにボランティアとして手伝ってくれます。なお、平成18年6月、

放送大学第1回グッド・プラクティス・コンテストで学生サービスに関して学長賞をいただいております。

## 客員教員のゼミナール

教員スタッフとしては、専門分野の異なる6名の客員教員がゼミナール、公開講演会、学習相談等々で活躍しています。とくにゼミナールが好評です。学生と対話しながらの授業ですので、教員との交流が密になり、学生たちは熱心に楽しく学習しています。

## サークル活動、大好評の学生研修旅行

学生のサークルは3つあり、いずれも活発に活動しています。「登山サークル」は毎年数回、山行を実施。7月には鳥海山に登りました。「在福もみじ会」は福島市に在住する学生の集いで、講演会や情報交換などを行っています。「会津学知会」は会津地域で学びを尊しとする在学生たちが講演会や学習会を開催し、地域に生涯学習の楽しさを発信しています。この他に、学生有志によって英文学の読書会が行われています。

学生研修旅行は、例年、大好評。当センターの「名物」です。今年9月の「北国街道出雲崎宿『妻入りの街並み』と良寛を訪ねる」は募集を開始して数日で定員一杯。帰りのバスの中はカラオケで盛り上がり、眠ってしまう人は誰もいませんでした。



研修旅行集合写真(新潟県・与板城址)



面接授業風景

## いわきサテライトスペース

以上、福島学習センターを中心に述べてきましたが、いわき市の東日本国際大学構内に「いわきサテライトスペース」があります。4名の常勤職員と約300名の学生がいます。東日本国際大学教授の客員教員がゼミナールや学生指導を担当。最近、学生数が増える傾向にあり、職員一同も張り切って、一層のサービス向上に努めています。

## 福島学習センター

郡山市桑野1-22-21(郡山女子大学内) 〒963-8025  
郡山駅から福島交通バスで20分 電話:024-921-7471



学生募集—教養学部学生及び大学院修士選科生・修士科目生

広報課

平成22年度第1学期の学生募集を以下のとおり行います。  
平成21年11月15日(日)～平成22年度第1学期学生募集要項配布開始

出願期間	平成21年11月15日(日)～平成22年2月28日(日)
可否通知等	平成21年12月上旬～平成22年3月中旬
学費の納入	平成21年12月上旬～平成22年3月末
入学許可通知・印刷教材等の配送	平成22年1月下旬～平成22年3月末
授業開始	平成22年4月1日(木)

放送大学に関心があるご友人、ご親戚他お知り合いの方にも、この機会にぜひ本学についてご紹介くださり、入学をお薦めいただきますようお願い申し上げます。

平成22年3月末をもって学籍が切れる学生の方で、平成22年度第1学期以降も引続き学習を希望される場合は、改めて入学手続きが必要となりますが、入学科が割引になります。

・出願締切日は平成22年2月28日(日) <必着>です。

2010(平成22)年度第1学期面接授業科目の追加登録について

学習センター支援室

科目登録決定後に、空席のある面接授業科目については追加登録をすることができます。

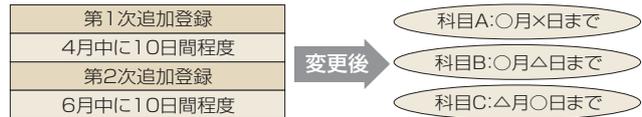
空席状況(追加登録の対象となる科目)は空席発表日以降、各学習センターの掲示・キャンパスネットワークホームページでお知らせします。

受講したい科目をご確認のうえ、科目ごとに定められた追加登録受付期限までに、その科目を開設する学習センター・サテライトスペースへ申請してください。

※具体的な日程、申請方法などくわしくは「面接授業開設科目一覧」「面接授業時間割表(各ブロック版)」をご覧ください。

平成22年度から追加登録を見直し、皆様が利用しやすい手続きに変更いたしました。

①科目ごとに追加登録受付期限を定め、登録機会を増やしました。



②原則として、開講日の1週間前まで受付を行いません。



授業準備の都合上、追加登録を受けられない科目、または1週間前まで受けられない科目がありますのでご了承ください。

2009(平成21)年度放送大学学位記授与式について

総務課

2009(平成21)年度学位記授与式の日程が決まりましたので、お知らせします。

日時:平成22年3月27日(土)午前11時00分から  
場所:NHKホール(東京都渋谷区神南2-2-1)

「放送大学創立25周年記念募金」ただ今募集中

総務課

放送大学では、創立25周年を記念した募金を行っています。この募金は、学習センターにおける学習環境・学習活動の改善や同窓会活動の支援などに役立てられます。

全国の学習センターに募金趣意書と振込用紙を備え付けていますので、皆様のご協力をお願いします。これまでの募金総額や今年度の使途及び募金の趣旨等の詳細は、放送大学のホームページをご覧ください。また、募金についてのお問い合わせは総務部総務課総務係(電話:043-298-4206)までお願いします。

●募資金額

学生の方は一口5千円ですが、それ以下のご寄付も大切に活用させていただきます。

東京文京学習センターの新築及び仮校舎への一時移転に関するお知らせ

このたび放送大学東京文京学習センターでは、学習環境を一層整備するため、現在の校舎を取り壊し新築することになりました。このため、工事期間中(平成22年3月1日から概ね1～2年程度)は、北区浮間4丁目(旧西浮間小学校校舎)に一時的に移転いたします。学生の皆様方には、建物が竣工するまでの間は、ご不便をおかけすることになりますが、一時移転中も落ち着いた学びの環境となるよう努力してまいります。既に掲示や本学HP等でご覧になられたかもしれませんが、改めてお知らせいたします。

新たなスタートに向けいっしょにがんばりましょう。

東京文京学習センター所長 桂井 誠

編集後記

今回のON AIRは、世界公開大学学長シンポジウム、メリーランド大学ユニバーシティ・カレッジとの国際交流協定締結、日韓中公開大学での国際セミナーと、放送大学と海外の公開大学との交流活動について3本立てで取り上げました。短い記事からも、放送大学がこれから取り組むべき課題や執筆者の問題意識を垣間見ることができます。放送大学をより良くするための取り組みについては常に議論されています。新しい取り組みやその成果が早く、また続々とON AIRでもお伝えできるよう、そして読者のみなさまに実感していただけるように努力していきたいと思っております。(大西仁)

ご意見やご感想をお聞かせください。メールアドレス editor@u-air.ac.jp

放送大学通信 オン・エア 編集委員(平成21年度)

- |            |        |       |
|------------|--------|-------|
| 委員長        | 教授     | 松村 祥子 |
| 委員         | 准教授    | 岡崎 友典 |
|            | 教授     | 鈴木 基之 |
|            | 教授     | 島内 裕子 |
|            | 准教授    | 二河 成男 |
|            | 准教授    | 大西 仁  |
| 千葉学習センター所長 | 宮崎 清   |       |
| 編集事務担当     | 総務部広報課 |       |



放送大学

http://www.u-air.ac.jp/ ISSN 1343-3369